

公認会計士「研修出向制度」 体験者レポート

vol. 9 取材・文／南山武志 撮影／大平晋也

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・レポートをお届けする。



「税務を知りたいと一般企業へ」

——大学院を出られているのですね。

工藤 大学4年の時に公認会計士試験に合格したのですが、会計基準の成り立ちなどをもう少し勉強したかったんです。折しもIFRSが入ってくるタイミングでいろいろと騒がれていたのでも、それをテーマに「IFRS導入により判断基準が増えることは、投資家にとってメリットではないか」という内容の修士論文を書きました。

——監査法人に入って感じたことは？

工藤 担当したのは化粧品・健康食品関連、機械関連など、メーカーが多かったですね。ものをつくってから売るまでの一連の流れを見られたことは、大変有意義な経験になりました。同時に、実際に企業の担当者の話を聞き、監査に携わるなかで、「今までやってきた勉強だけでは足りないぞ」という思いも強くなりました。

——例えば、どんなところに？

工藤 内部統制監査が導入され、会社側が作成したフローチャートやRCM（リスクに対応する統制活動の状況を定義した文書）をチェックしなければならなくなったのですが、どこが大事なポイントなのかを見極めるのがかなり大変でした。「このあたり」と一般的にははいえるのだけれど、「当社はず



「税務の人材を募集している企業があるから、行ってみたいか」と声をかけられたのが、当社に出向したいきっかけです。今振り返っても、まさに「渡りに舟」でした。

「数字を取りに行く」 「アグレッシブさを習得」

——実際に税務の仕事に携わって、どうでしたか？

工藤 当社はNTTグループの経理や人事・給与などの間接業務を担当するシェアードサービス会社で、私はグループ4社（NTT持株会社、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ）の税務決算業務をやらせていただいています。着任しての第一印象は、「なんて数字がデカいんだろう」ということ。一つひとつが何千億

円の単位で、驚きました。にもかかわらず、実際に業務を行っている方々は、税金費用を把握するための申告調整対象等について、それぞれ1円単位までとことん調べられるわけです。企業風土も大きいと思うのですが、「重要性に乏しいものは簡便な会計処理も容認できる」という世界しか知らなかった私にとって、新鮮な驚きでした。

——巨大企業の現場の苦勞も実感できたわけですね。

工藤 チェックする時は一瞬でも、それをつくり上げるまでには相当の時間と労力を要しているのだということがよくわかりました。また1年経ったばかりで見えない部分も多々ありますが、監査でチェックしてきた申告書の税額算定までのフローを体験できたのは、すごくいい勉強になったと実感しています。

あと、監査との違いを痛感したのは、税額算定をする側にいると、「数字を取りに」いかなければならないということ。監査はもらった書類を調べればいいのですが、ここでは社外の知らない人のところにも足を運んで情報収集をしないと、仕事にならない。受身ではなく、アグレッシブな問題解決能力が少しは身についたかなと思えるところも、出向してよかったと感じている点です。



巨大な数字への緊張感と とことん調べる風土のなか、 会計士の底力を育みたい

エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社グループ財務会計部門 四社税務担当
工藤 保浩 ●29歳

「つとこうやってきたんですよ」というような、会社なりの考え、思いがあるわけですね。それに対応するとなると、
——その知識、だけでは不十分なのです。
——そうしたことが、一般企業への出向の動機になった。

監査を担当してもう一つ感じたのは、税務を非常に気にしているということ。考えてみれば当然で、会計上の利益を得た後に税務調整が行われ、しかるべきキャッシュアウトが生じるわけですから、企業経営にとっては極めて重要なファクターです。そこにも興味を覚えました。それで、「今後どんな仕事をしたいか」という監査法人の自己申告書に、「税務関係の業務を経験してみたい」と書いたんですね。数カ月後、

——今後の課題、目標を。

工藤 税務のなかでも国際税務いわゆるタックスヘイブン対策税制について、主担当のかたちでやっています。1年目は手探りのところもありましたので、2年目の今年はいよいよ円滑に回していけるようにしたいというのが、当面の目標です。

工藤 「出向してどうですか？」と先輩や同僚に聞かれることが多く、迷っている人がたくさんいるのだと感じています。キャリアプランを考えた時、3年間という出向期間に躊躇する気持ちもわかりますが、会社を知ることには長い目で見ればプラスになるはず。興味を感じる人は、積極的にチャレンジしてみるべきだと思います。

この出向で、かじった程度とはいえ、実際の企業活動というものを体験することができました。外から注視する立場に加え、企業の中から見ると得られたのは大きかったと感じています。将来的には、この経験を生かして、より深く本質的なところから判断が下せる会計士、何よりも会社に喜んでもらえる会計士になりたいと、決意を新たにしています。

——最後に、後進へのメッセージを。

Yasuhiro Kudo Profile

1983年6月11日 千葉県八街市生まれ
2005年11月 公認会計士第二次試験合格
2006年3月 早稲田大学社会科学部卒業
2008年3月 早稲田大学大学院
社会科学研究所修了
新日本有限責任監査法人入所
2011年7月 エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社へ出向
家族構成＝妻

出向受け入れ企業の声

3年間の出向期間を全うし、
自身のキャリアの糧にしてほしい



エヌ・ティ・ティ・ビジネスアソシエ株式会社
取締役アカウンティング事業部長 内部監査士
猿渡 徳一

NTTグループは、2010年に南アフリカのIT大手ディメンション・データを買収し、グローバル化を加速させた。IFRSや国際税制の大きな流れへの対応も、強く意識されてきた。そうした状況を踏まえ、会計、税務の専門家のスキル、ノウハウがぜひともほしいと考えていたところに、新日本有限責任監査法人から出向制度の提案があり、採用させていただくことにした。

——昨年、連結決算の部門に1人入ってもらっており、工藤さんは2人目だ。会計士という「先生」のイメージがあり、最初は溶け込んでもらえるか不安もあったのだが、両人とも仲間意識を持って働いてくれており、期待どおりの戦力になっているだけでなく、周囲のいい刺激にもなっている。

3年という出向期間は、本人たちにとっても我々にとってもベストなものではないか。退社後のパフォーマンスのダウンは痛いですが、そこは残った人間が力をつけてカバーする。その繰り返しで、組織としての実力を蓄えたい。継続的に採用したいと考えている。